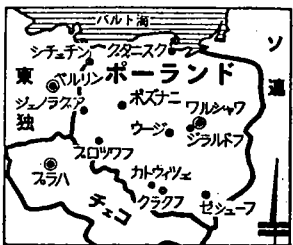


# ポーランド政府による戒厳令=武力弾圧を弾劾する

ポーランド政府は、去る12月13日午前零時を期して、全国に非常事態を宣言し、全土を戒厳令下に置き、「救国軍事評議会」を設置し、即ちポーランド労働者・人民に対する武力弾圧を開始した。われわれは、このポーランド・ヤルゼルスキ軍事政権の暴挙に対し、満腔の怒りを込めて弾劾するとともに、即ちポーランド労働者・人民が必ずやこの戒厳令弾圧をはね返し、勝利におかして前進することを確信する。同時に、既に開始されんとしているソ連や米帝等列強による軍事介入、世界戦争挑発の策動を徹底的に弾劾し、日本における即ちの強化をもつて応えていくことを明らかにするものである。

## ポーランド人民の決起こそ正義だ！

戒厳令下のポーランドは、今、救国軍事評議会が全ての権限を掌握し、憲法を停止し、国会を閉鎖し、自主管理労働組「連帯」をはじめ、あらゆる労働組合活動を禁止し、全学校の無期限閉鎖、政府党と軍機関係以外の新聞・雑誌類の全面発刊停止、さらに、職場離脱やストライキ労働者には、死刑も含む厳罰適用などの、ヤルゼルスキ軍事政権の武力弾圧政策が「つぎとつぎ」と強行されている。そして、戒厳令布告直後に逮捕された「連帯」労働指導者や元党指導者は一十名にもものぼっていると報道され、更に日がたつに従ってポーランド全土での軍による逮捕者は五千名とも六千名とも一部では四万九千名とも報道されている。



こうした全く反人民的な戒厳令弾圧に抗し、即ちポーランド労働者・人民はつぎつぎと血を流してまで即ちに立ち上っている。首都ワルシャワをはじめ、グダニスク、カトウツェ、ポズナニなど、各地で工場労働者がバリケードストライキに突入し、武装自衛した労働者の隊列も生まれだしていると伝えられる。即ちポーランド労働者・人民は、ストに対し死刑攻撃をふりかざすヤルゼルスキ軍事政権の戒厳令弾圧に屈することなく、軍隊との正面对決をもつてつぎつぎとストライキに、街頭での即ちに立ち上っているのだ。

ポーランド経路が、この数年きわめて深刻な破局的状態を続ける中で、ポーラ

81.12.19

No.925

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六・八線) 電話(22)七二〇七

ンド労働者・人民は、昨年夏、自主管理労働組「連帯」を結成し即ちに立ち上った。そして今日、軍隊との正面对決に死をも恐れず、工場バリケードストライキに突入しているのだ。

## ソ連の軍事介入、米帝の世界戦争挑発を弾劾する

ソ連は、この戒厳令施行をいち早く歓迎する声明を出し、軍事介入の托会をうかがっている。また、核戦争挑発政策を展開するアメリカ・レーガン政権は、ソ連の軍事介入を予期し、これを絶好の口実として、独自の侵略的野望をもち、世界的規模での軍事的対決、核戦争挑発をもつて介入しようとしている。今や、ポーランドをめぐる情勢は、即ちポーランド労働者・人民の決起と、これを軍事的に制圧し武力弾圧を強める、真に解放された労働者の国家とはいかない「社会主義国」ソ連・ポーランド政府、軍と、これを口実とするアメリカ帝国主義の戦争政策のエスカレート、世界戦争の一触即発的情勢にある。

## 戦争と反動の攻撃を三里塚からびち破ろう！

こうした事態に対し、すでにヨーロッパでは、即ちポーランド労働者・人民への連帯と、ヤルゼルスキ軍事政権の武力弾圧抗議の即ちがまき起っている。われわれは、ポーランド・ヤルゼルスキ軍事政権の暴挙に対し、怒りを込めて弾劾するとともに、即ちポーランド労働者・人民を支持し、連帯の立場を堅持し、何よりも世界戦争、侵略戦争の目として急激に膨張、凶暴化しつつある日本支配階級自衛隊の戦争政策、軍事大國化、改憲の攻撃、戦争と反動攻撃の頂点をなす、三里塚二期着工阻止、国鉄35万人体制攻撃、右翼労働「統一」攻撃を巨万の日本人民の決起でうちくだくべく奮闘しようではないか。